

7 成長戦略の実現に向けた国の政策の推進

1 「未病」の考え方に基づく具体的施策の推進

【提案内容】

提出先 内閣官房、厚生労働省

健康・長寿社会の実現に向けた「未病」を基軸とした取組を推進するため、「健康・医療戦略」に位置づけられた「未病」の考え方に基づいて、国として具体的な施策を推進すること。

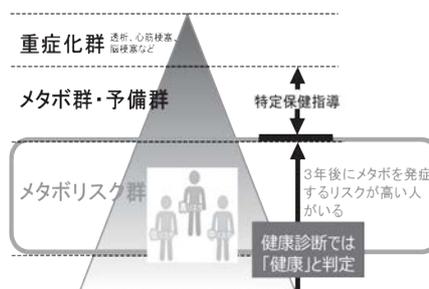
◆現状・課題

国民の健康寿命延伸と新たな市場・産業の創出が求められる中、「健康増進・予防に関する国民の意識喚起」や「疾病予防効果の見える化」等が「健康・医療戦略」でも指摘されるなど、個人の行動変容を促す取組を支援することが喫緊の課題である。こうした課題に対処するため、例えば、個人の現在の未病の状態や将来の疾病リスクを数値で見える化（＝「未病指標」）し、個人の主体的な行動変容を促す未病改善の取組を保険者努力支援制度において評価するなど、「未病」を基軸とした具体的な施策の推進が必要である。

◆実現による効果

「未病指標」の活用をはじめとした未病改善の取組を、国の具体的な施策として推進し、健康行動に向け個人の行動変容を促すことで、国民の健康寿命延伸につながるとともに、新たな商品やサービスの創出促進に向けた動きが加速する。

<未病指標とターゲット群>



未病指標により、健康診断の結果からメタボリックシンドロームになるリスクが見える化し、早期改善を促す。

(神奈川県担当課：政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室)

2 再生・細胞医療の実用化の促進

【提案内容】

提出先 内閣官房、経済産業省、厚生労働省、文部科学省

再生・細胞医療の実用化を促進するため、高品質でコスト面でも優れた細胞を安定的に生産・供給する拠点機能の設置に対し、必要な予算措置を講じること。

◆現状・課題

再生・細胞医療は、自分の細胞から内臓や神経を再生するなど、次世代の医療として大きく期待されている。こうした医療をいち早く提供するため、県では、羽田空港対岸の川崎市殿町地区のライフイノベーションセンターに企業を集積し、業界団体、大学などと連携したネットワークを構築し、実用化に向けた支援に取り組んでいる。

また、慶應義塾大学を中心にして、神経・運動器(歩行)などに着目して再生・細胞医療と最先端医療機器を融合した脊髄機能再生プロジェクトなどを推進しているほか、殿町に立地する日本

で唯一の機関となる実験動物中央研究所や国立医薬品食品衛生研究所を中心に、理化学研究所等も参画し、再生・細胞医療の品質評価の取組も進めている。

そうした中、臨床に用いることのできる高品質でコスト面でも優れた再生・医療細胞を生産・供給できる施設は実用化及び産業としての国際競争力強化に不可欠であるが、その設置にあたっては、地域・拠点を絞って人材、資源を川崎市殿町地区に集中的に投入する戦略的な取組が重要になる。

◆実現による効果

戦略的領域・拠点を中心に、再生・細胞医療の実用化が加速するとともに、アカデミア等が開発したシーズの実用化を促進する持続可能なモデルも実現し、その設置した効果が全国に波及する。

また、脊髄機能再生や中枢神経再生及び椎間板再生等の実用化研究の加速化に加えて、再生・細胞医療と最先端医療機器の融合展開を進めることで、健康寿命延伸に向けて大きな効果が期待できる「歩行機能向上・再生」を中心に再生・細胞医療の社会実装が進む。

(神奈川県担当課：政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室)

[ライフイノベーションセンター]

